



しがの農業・水産業

人と人・自然が育む近江の食と広がる豊かさ

令和8年

滋賀県

滋賀県農政水産部農政課

電話：077-528-3976 FAX：077-528-4880



第1章 基本理念

つながる、つづく、しがの農業・水産業

～人と人・自然が育む近江の食と広がる豊かさ～

人口減少や高齢化、気候変動、物価高騰など滋賀の農業・水産業をとりまく情勢が大きく変化する中、「命」の源となる「食」を創る礎である本県農業・水産業を次世代に引き継ぐためには、これまで以上に「生産者」、「流通・小売事業者」、「消費者」の立場や世代を超えて心を通わせ、協力し、互いを尊びながら、自然とのつながりも大切にすることが必要です。

このつながりが広がることで、近江の食が未来へと続き、人、経済、社会、環境の「豊かさ」が広がり農業・水産業の営みがつづいていきます。



第2章 目指す2035年の姿



基本理念を念頭に置き、滋賀県農業・水産業の目指す10年後（2035年）の姿を、「人」・「経済」・「社会」・「環境」の4つの視点から描きます。

この目指す姿は、農業・水産業に関わる「人」を土台としながら、「経済」・「社会」・「環境」の調和を進める取組であり、SDGsおよびMLGsの達成にも貢献するものです。

私たちは、この姿を目指すことにより、「琵琶湖システム」を保全し、その価値や魅力をより一層高めます。



第3章 政策の方向性

2035年に向けた4つの視点と13の政策

共通視点「人」

- 人 1 担い手を確保・育成する
- 人 2 農業・水産業、農山漁村を支える多様な人材を確保・育成する
- 人 3 農業・水産業の魅力発信によるファン拡大

視点「環境」

- 環境 1 琵琶湖を中心とする自然環境と調和のとれた農業・水産業を展開する
- 環境 2 地球温暖化対応策のさらなる推進に取り組む
- 環境 3 自然災害などのリスクに対応する

視点「経済」

- 経済 1 需要の変化に対応できる生産力を確保する
- 経済 2 地域の魅力や強みを生かした生産を進める
- 経済 3 経営体質の強化を進める
- 経済 4 消費喚起によるブランド力の向上および販路拡大

視点「社会」

- 社会 1 農山漁村に関わる人を増やす
- 社会 2 多様な主体との連携強化で農山漁村の暮らしの維持・活性化を図る
- 社会 3 地域全体で生産基盤を守る

つながる、つづく、しがの農業・水産業



教えて！
これからの農業・水産業

担い手、支え手、 ファンの拡大

- 人・1 担い手を確保・育成する
- 人・2 農業・水産業、農山漁村を支える多様な人材を確保・育成する
- 人・3 農業・水産業の魅力発信によるファン拡大

私たちは、「人」の視点において、「担い手、支え手、ファンの拡大」を主題とし、農業・水産業の担い手が確保・育成されるとともに、生産者と消費者のつながりが深まり、誰もが農業・水産業を身近に感じている姿を目指します。



経済

教えて！
これからの農業・水産業

食の礎を担う 力強い農業・水産業

経済・1 需要の変化に対応できる生産力を確保する

経済・2 地域の魅力や強みを生かした生産を進める

経済・3 経営体質の強化を進める

経済・4 消費喚起によるブランド力の向上および販路拡大

私たちは、「経済」の視点において、「食の礎を担う力強い農業・水産業」を主題とし、世界に認められた「琵琶湖システム」や地理的・歴史的な消費地との結びつき等滋賀の強みを生かして、未来を切り拓くことができる、力強い農業・水産業が営まれている姿を目指します。



社会

教えて！
これからの農業・水産業

多様な人で賑わい、 心やすらぐ農山漁村

社会・1 農山漁村に関わる人を増やす

社会・2 多様な主体との連携強化で
農山漁村の暮らしの維持・活性化を図る

社会・3 地域全体で生産基盤を守る

私たちは、「社会」の視点において、「多様な人で賑わい、心やすらぐ農山漁村」を主題とし、多様な人が関わることで人と自然が共存する農山漁村が賑わうとともに、その価値が高まり、誰もがその恩恵を実感している姿を目指します。



環境

教えて！
これからの農業・水産業

琵琶湖をはじめとした豊かな自然環境と 調和した農業・水産業

環境・1 琵琶湖を中心とする自然環境と
調和のとれた農業・水産業を展開する

環境・2 地球温暖化対応策のさらなる推進に取り組む

環境・3 自然災害などのリスクに対応する

私たちは、「環境」の視点において、「琵琶湖をはじめとした豊かな自然環境と調和した農業・水産業」を主題とし、気候変動や地球温暖化、自然災害等のリスクに対応するとともに、琵琶湖を中心とする環境と調和した「琵琶湖システム」が次世代に引き継がれるための取組として発展し、誰もがその取組を誇りに感じている姿を目指します。

